

3. 親切会60周年に寄せて

八王子市親切会設立60周年を祝して

副会長 三浦 眞一

八王子市親切会が設立60周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。これも歴代の関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。本会が設立40周年を迎えた際にも、親切会の理事として記念誌に寄稿しており、20年もの歳月がこんなにも早く過ぎ去ったことに大変驚いております。

60年前、全国に先駆けて「親切都市宣言」を行った八王子市では、多くの市民の皆様や様々な地域団体が社会の中で「親切」を実践し、地域コミュニティの形成やまちづくりに貢献されてきました。今もなお、多くの方が市内各地で「親切」を実践されており、設立当時から行っている「親切表彰」においても、毎年様々な活動が表彰されています。これは、郷土を愛し、他人を思いやる心で明るいまちを築こうという、設立当時の想いが脈々と受け継がれていることの表れであると強く感じております。

しかしながら、設立から現在に至るまで社会は大きく変化し続けており、私たちはかつて想像できなかったような多くの課題に直面しています。特にここ数年は、コロナ禍により私たちの生活は一変してしまいました。人と人の結びつきが薄れ、不安を抱えながら過ごしている方もいらっしゃると思います。そういった日々の中で、人を思いやる心、誰かに手を差し伸べる心、そのような「親切心」が、このコロナ禍を乗り越えるためにもより一層、大切なものとなっているのではないのでしょうか。そして、設立60周年を迎えた今、この「親切心」の輪をより広げ、さらに明るく住みよいまちを築いていくことの重要性を改めて広く発信し、実践していくことこそが、八王子市親切会が果たすべき役割なのではないかと思えます。

結びに、親切運動の精神が末永く引き継がれていくとともに、今後の益々の発展を祈念して、お祝いの言葉といたします。

親切の心をいつまでも

副会長 秋間 利久

八王子市親切会60周年記念誌の発行にあたり、これまで「八王子市親切会」の活動にご理解とご支援を賜りました多くの皆様並びに本会の運営にご尽力されています関係機関の方々に、心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

本会も発足以来、60周年を迎えました。この間、様々な活動を展開する中で、親切募金箱を通じお預かりした資金等で購入した親切傘を利用された方から、「急な雨で困った時、目に留まった黄色の傘に救われた」など感謝のお声を頂くたびに、心と心をつなぐ「親切心」の大切さを感じております。

昭和36年「郷土を愛する心、他人を思いやる心」を育て、親切で明るいまちを築くことを目的に本会を結成しました。昭和39年5月八王子市は「親切を心の花として育てましょう」「親切な心を誰にでも贈りましょう」「親切な心には感謝の気持ちで応えましょう」「親切で心と心を結び合ひましょう」を柱に親切憲章を掲げ、親切都市宣言を行い、現在に至っています。

本会の取り組みにある「親切表彰」を行うたびに、市民の皆様には、「郷土を愛する心、他人を思いやる心」が定着していると嬉しく思っております。

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症は、未だに収束の兆しが見えず、感染症の脅威と戦う厳しい日々ですが、自分が出来る範囲で、助けを求める方を支援すること、或いは、人を思いやる心を持ち続けることは大切ではないでしょうか。私自身、困っている方を見かけ、声をかけてみますと、道に迷った、道路の段差があり車いすが上がらないなど、私で出来ることが沢山ありました。どんな些細なことであっても、ご自身が出来る「親切」の気持ちを何かしらの形で表すことで、人と人との心は通じあうものと強く信じています。

先代から継承され60年続いた「親切」の心が、困難な時代にあっても、未永く、多くの方に引き継がれますことを祈念しております。

思いやりの心を大切に

副会長 岡本 夢乃

親切会が発足60周年を迎えられました事お慶び申し上げます。先人の方々が親切で明るい街を築き上げる為、継続してこられたご尽力に敬意を表します。発足当時、市民の皆さんは安全で明るい街づくり、自然の中で子ども達に豊かに育ててほしいとの思いで、町会・自治会、子ども会、PTAなど、様々な組織を作ってきたそうです。私は八王子市子供会の代表として、親切会に関わらせていただいております。子ども会も昨年60周年を迎えました。昭和、平成、令和と移り変わりと共に便利な世の中になりましたが、人とのつながりが希薄になり、当時町会に加入すると子ども会に入ることが受け継がれていましたが、現在は町会・自治会、子ども会に加入する人が少なくなりました。子どもの頃の体験は、子どもの成長期に必要な異年齢の子ども達と交流し、自然の中でのびのびと過ごし、人と関わる事で、弱者に対する思いやりの心や協調性を身に付ける事ができます。現代社会は豊かで便利な時代になりネット、SNSやスマートフォン等の普及により一人遊びが増え、子どもの成長期に必要な人との触れ合いが少なくなっています。また、いじめや、子どもによる犯罪の低年齢化が問題になっています。そして令和に入り、コロナ禍は今までに経験したこともない事で、子どもも大人も人とのふれあいが減少し、孤立しています。親切会の60年の歴史の中で、多くの方が表彰されました。八王子には多くの人に対する思いやりの心、親切心を持っている人がいることは素晴らしい事です。市民一人ひとりが「親切で明るい街八王子」の宣言を心に刻み、未来を担う子ども達にせなかを見せていただきたいと思います。市民の皆さんが思いやり心を持って明るい、住みやすい街づくりをこれからも継続して行って下さる事を願います。

八王子市親切会60周年にむけて

副会長 赤澤 将

八王子市親切会が発足以来、ここに記念すべき60周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。これまで親切運動にご尽力されてこられました関係各位、諸先輩の皆様方のご労苦に対し、深く敬意を表したいと思います。

親切会の活動が始まりました60年前と比べて、現在の社会問題や経済環境も大きく変化しております。高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場という人々の生活領域における支え合いの基盤が弱まってきています。

国では、暮らしにおける人と人とのつながりが弱まる中、これを再構築することで、人生における様々な困難に直面した場合でも、誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せずにその人らしい生活を送ることができるような社会「地域共生社会」の実現を目指しております。

その中にあっても「郷土を愛する心、他人を思いやる心」を育て親切で明るいまちを築こうという親切運動の精神は不可欠なものであると考えております。

また、昨今は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人と人のふれあいが希薄になり、孤立、孤独感が強まっているような時代にあり、親切会が心掛けております「他人を思いやる優しい気持ちを持つことや相手のことを考えて行動すること」という理念は、家族や地域の人々の感染予防につながる行動の一役を担っているのではないかと感じます。

今後も親切会の持つ意義や活動を広く周知し、この運動を継続し、明るく住みやすいまちづくりにお互いに協力して取り組んでいきましょう。

結びに、八王子市親切会が60周年を迎えられ、益々のご発展とご提唱されている運動の精神の継承が、円滑に図られることを祈念いたしましてご挨拶いたします。

「親切会」～親切の輪を引き継ぎ未来へ

副会長 細谷 幸男

八王子親切会が発足60周年を迎えるにあたり、心からお喜び申し上げます。半世紀を超える長い歴史と伝統を継承され実績を残されたことは、この間携わった多くの関係者皆様のご尽力の賜物だと存じます。

今は、多様性の時代とも言われ、60年前とは人々の考え方や価値観など大きく様変わりしています。プライベート、個人情報保護などの言葉も飛び交い、何かと気遣いの多い、世知辛い世の中だとも言われるようになりました。そこでこのような現状を打破するために、「親切会」が歴史と伝統に則り、築き上げた「親切都市宣言」の親切運動があてはまるのではないのでしょうか。八王子市民の心の豊かさをアピールできる、活動を広めるにも絶好の機会となります。それには、「親切会」の存在自体を市民の方々に周知させるとともに、特に「親切表彰」については、多くの老若男女にご理解いただくことが重要です。日常で感じた何気ない優しさ、思いやり、またボランティア活動に対し、「心に感じ、出会った親切」として、その行為を気軽に推薦いただければと願います。多くの表彰者を得ることで、親切の輪は広がっていきます。これからは、若い世代の皆さんのご理解、ご支援を得ることが必要であり、共に次の70周年を目指し、先人の歩みを引き継いでいかなければならないと思います。

五輪から五輪へ 受け継がれる親切運動

賛助会員 海老澤 信一

冬の積雪予報など天気の話で良く注目される八王子ですが、突然の夕立や雷雨に足止めされ困った経験のある夏も印象的です。今夏も市内でいきなり強雨に打たれ近くの市民センターに入って親切会の親切傘に助けられました。本当に有難いことです。こうした親切会による親切運動は昭和39年(1964年)の一度目のオリンピックよりも前、昭和36年(1961年)に始まり親切傘は海外からの五輪選手へも贈られて大いに喜ばれたと聞きますし、その親切傘を大切に母国へ持ち帰った選手もいたという話は実に感動的ですからあります。

また近年においても、市内上野町の本立寺さんの若いお坊さんらが中心となり、ワクチン接種予約で困っている高齢者に対してサポートを行い親切表彰されるなど、八王子市の親切都市宣言の心は昔も今もしっかりと生きていますと感じました。

さて、令和3年(2021年)二度目の東京オリンピックが開催され、八王子においては前回と同じく自転車ロードレースの会場となりました。私も親切運動の一つとして大会運営サポーターとなり、市内堀之内・南大沢地区を担当。大会会場となる道の沿道に立って交通整理やレースを観戦される方々への誘導案内に従事しました。

大勢の方が見守り無事にレースが進行する中において行った市民の方への声かけ行為、その短いお声がけ一つで感謝され、ありがたい言葉を頂いてお互いがとても優しい気持ちになれたものです。

一度目の東京オリンピックから今回二度目の東京オリンピックへ。その間、このおもてなし精神の親切運動がずっと受け継がれている八王子市を私は誇りに思い、未来永劫、いつまでも大切にしていきたいと思っています。

